

# 東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2012 秋号

## ◇◇ 記事一覧 ◇◇

東日本大震災に想う . . . . .	1
第48回・宮城大会を開催 . . . . .	1
役員会・総会を開催 . . . . .	2
新役員の顔ぶれ . . . . .	2
2011/12年度学会賞 . . . . .	3
宮城大会プレシンプオの記録 . . . . .	4
福島大会プレ・シンポを開催 . . . . .	4
投稿をお待ちしています . . . . .	4



## 東日本大震災に想う

東北農業経済学会長 渋谷長生 (弘前大学)

### ◆3.11は何をしましたか。

3月11日午後2時46分。皆さんはあの瞬間をどこで、何をしましたか。

私はあの瞬間を宮城県北部大崎市田尻町で迎えました。今回の地震で震度が最も大きかった宮城県北部にいたのです。会場にいたすべての人が揺れが大きすぎて一歩も動き出せないまま、天井が大丈夫だろうかと上を見上げるばかりでした。

出席していた「会議」は即中止となり、私は参加者の一人で仙台市で農業をやっている方をお願いして仙台市まで車に乗せてもらうことにしました。仙台市ではガス、水道、電気も止まり、交通機関も不通のため車に乗せてもらった農家にお世話になることにしました。

### ◆炊き出しに奮闘

私は弘前にはすぐ帰れない、やることも無い中で、この震災の中で何かお手伝いを出来ないだろうかと考えていましたら、農家の方がLPガス釜でご飯は炊けると教えてくれました。じゃあおにぎりを作って、食事のままならない人たちに配ろうとなりました。まずガス釜をもっと探そう、おにぎりを握ってくれる人を周辺の住宅に住む人に頼もう、米は近くのみやぎ生協店

舗に掛け合って融通してもらおうなど早速準備にかかりました。ガス釜は4台、おにぎり握り手伝いのお母さん方は約10名を確保し、それから1日2回みやぎ生協の店舗前でのおにぎりの炊き出しを私も手伝うことになったのです。そのような仙台での地震被災者の生活を12日から15日まで続けていました。

### ◆学会長をなぜ引き受けたのか

実はこの震災を体験し、私の心の中では大きな変化があることを実感していました。それは大震災の前に自分は何が出来るのだろうかとの自問でした。

私が学会長という似つかわしくない職務を引き受けた理由はそうした心の変化であります。さらに当学会は本年度より宮城、福島、岩手を会場に東日本大震災並びに原発問題をテーマに掲げたシンポジウムを行うことになっています。来年度は福島大会です。福島は私の第二のふるさとです。福島の復興をどのように進めるのか、これをテーマにした学会であるならば、自分が引き受けることも意味があるのではと考えた次第です。

当学会員の皆さんの活躍の場である東北地方の発展に寄与できるような研究が進むよう微力ながらお手伝いしたいと考えているところです。

## 第48回・宮城大会を開催

2012年8月24日、25日に、東北大学大学院農学研究科・農学部にて、第48回大会（宮城大会）が開催されました。1日目の大会シンポジウムは、「東北農業・農村の復興—被災地・宮城から考える—」を共通論題として、活発に議論していただきました。生協食堂で開催された懇親会にも約90の参加があり、大いに盛り上がりました。

2日目は、午前中に個別報告が行われ、4会場で29件の発表が行われました。午後は「魅力的な参画者による新たな農漁村像の追求」をテーマに、活発な議論と意見交換が行われました。

連日の猛暑にもかかわらず、両日で延べ300名を超える参加があり、盛会のうちに大会を終えることができました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

なお、大会の開催にあたり、東北農政局、宮城県、仙

台市、宮城大学、宮城県農業協同組合中央会、仙台農業協同組合、宮城県農業会議、宮城県土地改良事業団体連合会、宮城県農業共済組合連合会、日本政策金融公庫仙台支店農林事業の各機関からご参加頂き、実行委員会を組織するとともに、物心両面で応援を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

宮城大会実行委員長 長谷部 正

## 役員会・総会を開催

宮城大会の開催に併せて平成24年8月23日に役員会が開催され、翌8月24日に総会が開催されました。主な内容は次の通りです。

### 1. 2011/12年度事業報告および2012/13年度事業計画

#### 【編集委員会関係】

##### 1) 学会誌賞の決定

第29巻第2号に掲載された論文の中から、佐藤文吉会員（東北大学大学院）および椿真一会員（秋田県立大学）が学会誌賞に決定した（詳細は本誌「2011/12年度学会賞」を参照）。

##### 2) 会誌発行状況

秋田大会特集号を発行。

#### 【学会賞選考委員会関係】

学術賞は該当なし。奨励賞に半杭真一会員（福島県農業総合センター農業短期大学校）、実践賞に伊藤秀雄会員（伊豆沼農産代表取締役社長）が決定（詳細は本誌「2011/12年度学会賞」を参照）

#### 【研究助成事業関係】

金紅蘭会員（山形大学）に決定。

#### 【企画関係】

2013年夏の福島大会にむけ、プレ・シンポジウムを開催予定。木下賞基金から15万円を充当する。

#### 【庶務関係】

##### 1) 会員数報告

2011年7月末時点における一般会員219名、学生会員33名、団体会員3名であった。

##### 2) その他

次年度以降、役員会規定を整備していくことが確認された。

### 2. 2011/12年度会計決算報告・会計監査報告、2012/13年度会計予算

1) 2011/12年度一般会計及び木下賞基金会計決算が承認された。

2) 2012/13年度予算が承認された。

### 3. 2012/13年度大会（13年夏）開催地について

次年度の大会は福島県で開催。

### 4. 2012/13年度理事・監事について

標記理事・監事が選出された（次記事を参照）。

## 新役員顔ぶれ

2012/13年度役員会において会長および副会長が選出されました。その後、以下のように体制が決まりました（任期：2014年8月31日まで）。

◆会長：渋谷長生（弘前大学）

◆副会長：伊藤房雄（東北大学大学院）、小沢 亙（山形大学）、関野幸二（東北農業研究センター）

◆理事：石塚哉史（弘前大学）、佐藤和憲（岩手大学）、横山英信（岩手大学）、菊地敬子（宮城県大河原地方振興事務所）、川島滋和（宮城大学）、中村勝則（秋田県立大学）、長濱健一郎（秋田県立大学）、石澤孝司（山形県立農業大学校）、角田 毅（山形大学）、薄 真昭（福島県農業総合センター）、小山良太（福島大学）、伊藤亮司（新潟大学）、清野誠喜（新潟大学）、塩谷幸治（中央農研北陸研究センター）、磯島昭代（東北農業研究センター）、小野雅之（神戸大学大学院）、玉 真之介（徳島大学）、柳村俊介（北海道大学大学院）、吉井邦恒（農林水産政策研究所）、紺屋直樹（会長指名、宮城大学）、高橋太一（会長指名、東北農業研究センター）、渡部岳陽（会長指名、秋田県立大学）、吉仲 怜（会長指名、弘前大学）

◆評議員：木野田憲久（青森県産業技術センター農林水産総合研究所）、木村正祥（青森県農協中央会）、鈴木克訓（青森県農林水産部）、及川浩一（岩手県農業研究センター）、大川 隆（岩手県農協中央会）、千葉 匡（岩手県農林水産部）、佐藤純一（宮城県農協中央会）、高瀬 修（宮城県農林水産部）、小林郁雄（東北農政局）、鈴木 剛（秋田県農協中央会）、齋藤 了（秋田県総務部）、長沼良治（山形県農協中央会）、阿部 清（山形県農林水産部）、樋渡和宏（山形県農林水産部）、長島俊一（福島県農協中央会）、菅野和彦（福島県農業総合センター）、大谷秀聖（福島県農林水産部）、小林 巧（新潟県新潟地域振興局）、高橋一成（新潟県農協中央会）、大鎌邦雄、柘植徳雄（東北大学大学院）

◆顧問：五十嵐太乙（農林水産省東北農政局）

# 2011/12 年度学会賞

## 1. 選考結果と受賞理由

2011/12 年度東北農業経済学会賞（木下賞）は、奨励賞に半杭真一会員（福島県農業総合センター農業短期大学校）、実践賞に伊藤秀雄会員（伊豆沼農産代表取締役社長）、学会誌賞に佐藤文吉会員（東北大学大学院）、椿真一会員（秋田県立大学）が決定しました。学術賞には推薦がありませんでした。受賞理由は以下のとおりです。なお、宮城大会総会で表彰式が行われました。

### 1) 奨励賞

◆受賞者：半杭真一（福島県農業総合センター農業短期大学校）

◆受賞業績：「イチゴの品種を対象とした購買意思決定プロセスの研究－考慮集合の形成と偶発的選考を中心に－」ほか論文5編

◆受賞理由：氏は、受賞業績のタイトルにもあるように、福島県農業研究センター着任以来、一貫して消費者を対象としたニーズの把握、中でも消費者の購買意識や購買行動をテーマにした研究活動を実施してきた。研究を進めるにあたり新たな調査手法や分析手法を積極的に適用し、定量的に解明してきた業績は評価できる内容である。また、詳細な調査分析に基づいた現場の生産・流通改善に有用な情報であるだけでなく、行政の施策立案に対しても活用できる提言となっていることも評価できる。農業経済研究としての経験は浅い（2006年から研究に従事）ものの、奨励賞受賞にふさわしいと判断した。今後の活躍を期待したい。

### 2) 実践賞

◆受賞者：伊藤秀雄（伊豆沼農産代表取締役社長）

◆受賞業績：新しい農村産業の確立を目指した実践

◆受賞理由：氏が代表取締役社長を務める「伊豆沼農産」は、現在、国・県の農業振興施策として進められている農業6次産業化と輸出を先駆的に実践し全国的にも高い評価を得ている経営体である。伊豆沼農産の経営活動内容は、養豚（伊達の赤豚のブランド化）、食肉加工、直売所、グリーンツーリズム等多岐にわたり文字通り6次産業化を体現しており、その経営理念も「農業を食業に変える」から「人と自然へのやさしさをもとめて」さらには「農村を産業化する」とより高度化し、単に個人経営に止まらず、地域と共存の視点も入っていること、また、消費者等への情報発信や交流活動を通じた農業への理解を深める活動も高く評価できる。このような取組は、稲作に偏重している東北農業にあって、今後目指すべきモデル事例となるものであり、東北農業の発展に貢献している優れた実践を行っている経営体として実践賞にふさわしいと評価した。

### 3) 学会誌賞

◆受賞者：佐藤文吉（東北大学大学院）

◆受賞論文：「明治後期三陸汽船株式会社にみる「荷主組合」の地域性」（第29巻第2号）

◆受賞理由：本論文は、明治後期の地域企業である三陸汽船の経営問題に重要な役割を果たした「荷主組合」を取り上げ、地域性と地域の商人の関連に焦点をあて、関係資料を詳細に検討している。分析によって、「荷主組合」は商人らが基盤とする地域の利害を外部に主張することは可能であったが、地域間の利害衝突を調整する機能を持たなかったことを明らかにしている優れた論文と評価した。

◆受賞者：椿 真一（秋田県立大学）

◆受賞論文：「水田・畑作経営所得安定対策が東北水田単作地帯に与える影響－個別的土地利用から集团的土地利用－」（第29巻第2号）

◆受賞理由：本論文は2007年に始まった水田・畑作経営所得安定対策を契機に設立された集落営農組織がどのように変わってきているのかを1つの組織の詳細な調査から明らかにした。分析によって、組織が実質的作業共同化の要因として4点を析出し、法人化をした場合の課題も明らかにしている優れた論文と評価した。

## 2. 受賞のことば

◆奨励賞：半杭真一（福島県農業総合センター農業短期大学校）

この度は思いも掛けず東北農業経済学会木下賞（奨励賞）を賜り、関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。受賞の対象となりました「消費者の購買行動の科学的解析と流通施策の支援」は、福島県職員としての日々の業務において地域農業が抱える課題に対して皆様の御指導を得ながらその解決へ向けて取り組んできた研究です。もとより浅学非才の身ではございますが、この受賞を励みとして、木下賞の名に恥じない業績を修めるべく一層の研鑽に努めてまいりますので、今後とも御指導よろしくお願い申し上げます。

◆実践賞：伊藤秀雄（伊豆沼農産代表取締役社長）

この度は、東北農業経済学会木下賞（実践賞）を賜り、心より感謝申し上げます。

私は、1988年の創業以来、経営理念である『農業を食業に変える』をもとに農商工連携や6次産業化を実践（養豚、水稲、ブルーベリーの生産、加工品の生産、開発や販売、直売所、農家レストランなど）してまいりました。

また、2004年から「伊達の純粋赤豚」（登録商標）を香港に輸出し、海外への販路拡大とブランド戦略の両面の効果を実感し、その効果をビジネスモデルとして提案させて頂きました。

今回の受賞は地域の農家みんなの榮譽であり、新たな誇りを持つことが出来たと思っております。伊豆沼農産は現在、登米市と共に「新田地区活性化計画」に取り組んでおります。引き続き地域の「農村産業化」に精進して参りたいと思っておりますので、今後とも関係各位のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

◆学会誌賞：佐藤文吉（東北大学大学院）

学会賞決定のメールには、目を疑った。受賞の論文は、海運会社を商人らが共同で設立するさいの社会構造と利害関係の一端を論じたものであり、農業経済の分野では異端視されるのではないかとおもっていたからである。まして商人は、これまで端から流通機構から利益を収奪する不正の輩というイメージが強く、近代史において地方商人の共同性などほとんど論じられることはなかった。

この研究はそもそも総合農協の原点を探ることからはじまったものである。たどればそこには蚕糸業がある。農村工業は、けっして農民らの共同だけで展開されたものではない。国際市場に対応するには、情報が欠かせないし、また資金を必要とし、その中心には、商人がいた。地方商人は、地域社会の非匿名的な関係性を基礎とし、資本主義化に対応した。

「信念をもって取り組んでいればいつかだれかが認めてくれる」という某教授のことばがこんなにはやく現実になるとはおもわなかった。東北農業経済学会の諸先生方の度量の深さに感謝する次第である。

◆学会誌賞：椿 真一（秋田県立大学）

この度は東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）を受賞することができ、大変うれしく、また光栄に思っております。論文審査で多くの助言をいただきました審査員の先生方、ならびに学会賞にご推薦いただいた方々、選考委員会の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

私は秋田県立大学に着任して6年目になります。この間、農業構造政策が地域農業の構造再編に及ぼす影響と効果を東北・秋田をフィールドとして分析してきました。現場の生きた情報に接し、それを学問的にどこまで鋭く分析できるかと、いつも悩みながら研究を続けてまいりましたが、今回の受賞は何にも勝る「励み」であります。

今後とも精進してまいる所存ですので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## 宮城大会プレシンポの記録

2011年11月26日に東北大学農学部で開催された宮城大会プレシンポジウムの記録が学会ホームページ

からダウンロードできるようになりました。ぜひご覧ください。

## 福島大会プレ・シンポを開催

2012年11月30日（金）に福島大学において福島大会プレ・シンポジウムが開催されました。

福島県において食と農の再生に向けた活動に携わる方々から、10本の報告がなされました。約160名の参加があり、質疑応答では、学会員、農業生産者、農業関係機関など様々な立場の方からコメントをいただきました。多様な実践主体との情報共有を踏まえ、今後の課題と連携体制の強化についてセッションごとにとりまとめを行いました。

## 投稿をお待ちしています

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は和文で最大22,000字（印刷頁数で12頁）が目安です。詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』

編集担当理事 横山英信

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-34

岩手大学人文社会科学部

Tel/Fax：019-621-6777

E-mail：yokoyama@iwate-u.ac.jp

◇◇◇◇

## 編集後記

◆ニュースレター2012年秋号をお送りします。今号からは、基本的に電子媒体でご覧いただくことになりました。ご協力をお願いします。◆懸案であった名簿改訂を行い、先日お届けしました。異動等ございましたら、お早めに学会事務局までご連絡下さるようお願いいたします。◆電子アーカイブ化ですが、いよいよ2013年1月末から順次ウェブ上に公表していくメドがつかえました。ご活用下されば幸いです。◆次号2013年春号は5月発行予定です。（N）